

2年1学期 第4時「On the desk」

【本時のねらい】

コミュニケーションにおいては、言語情報だけでなく非言語的情報の占める割合は高い。その非言語的情報をキャッチするには「見る」というスキルが大切である。この授業では、「見るスキル」に焦点をあて、しっかり物を見る「観察力」のスキルアップを行う。

【ターゲットスキル】

コミュニケーション力

【エクササイズ&準備物】

アイスブレイキング：『まちがい探し』 間違い探しの貼り物（1枚）、生徒用シート（人数分）

メインエクササイズ：『On the desk』 丸いお盆にいろいろなものを貼りつけたもの
つけ加える物（数点）、解答シート（人数分）

【授業のポイント】

この授業は、クイズ的な要素が高いので、子どもたちのノリは非常に良い。スキル学習は本来的に何かに役立つというはっきりとしたターゲットがある場合が多いが、この授業にはそういうターゲットはない。この後に続く発展的コミュニケーションの導入という側面があるので、「見る」ことに重点を置いたゲーム的要素の高い授業になっている。

【流れ】

	活動の流れ	留意点・教具等
ウォーミングアップ	『まちがい探し』 黒板に2枚の大きめの絵、同じもののシートが全員に配布される。 指導者の合図で指示された数の間違いを探し、自分のシートに間違っただ箇所をチェックを入れる。 正解を確認する。	インターネット上にある「間違い探し」のサイトから問題を手にする。 個性や見方によって、分かりやすいものと分かりにくいものが違ってくる。
インストラクション	『On the desk』 教卓の上にあるお盆に、何がのっているかを見る。 見て覚える時間は30秒。 その後、指導者の質問に答える。 自分の席を教卓の近くまで持ってきてもいい。	お盆には白い布をかぶせておく。 「見る」「質問に答える」とだけ言う。気づきのスペースを確保するため。
エクササイズ	第一ゲーム 30秒見る。その後、再び白い布で隠される。 質問 「何個あった?」「何があった?」「一番小さかった物は?」 等々 質問に答える。 答え合わせをする。シートに記入する。	第一ゲームは種類の少ない方を見せる。 答えてもらいながら答え合わせをする。

	活動の流れ	留意点・教具等
エクササイズ	<p>第二ゲーム お盆には二点ほど追加して物が貼られている。 30秒見る。その後、再び白い布で隠される。 「何個あった?」「何があった?」「一番小さかった物は?」 等々(第一ゲームと同じ問題を) 質問に答える。答え合わせをする。シートに記入する。</p> <p>見て、覚えるための工夫を発表する。</p> <p>第三ゲーム 第二ゲームの品物を他のものに入れ換える。</p>	<p>第二ゲームは、第一ゲームよりも正解が多くなってくる。慣れ</p> <p>工夫をシェアリングする。</p> <p>第一ゲームよりも正解が多くなる。適応</p>
ふりかえり・シェアリング	<p>グループで気づきを交流する。 *「見る」ためにどんな工夫をしたのか。 *第一ゲームから第三ゲームにかけて、自分の中でどんな変化が起きたのか。</p> <p>ふりかえり用紙に記入する。</p>	<p>フィードバックの視点 ・間違い探しから On the desk 第三ゲームまで、子どもたちの、見る様子や発見の様子がどう変化していったかを返していく。</p>
<p>〔参考文献〕 不明 又は なし</p>		

子どもの気づき

- ・すごくよかった。全体も見erようになったし、色とかついている物など細かいところも見るようになりました。
- ・1回目より2回目の方がよくわかった。1回目はしっかり見れなかったけど、2回目は数とか色とか注意しながらしっかり見ることができた。
- ・結果はあんまり変わらなかったけど、覚えといた方がいいものを覚えておいたら出た!
- ・2回目を見たとき、何も変わってないけど、なんとなく簡単に感じた。
- ・1回目の方が簡単だと思うけど、2回目の方が多く見つけられた。
- ・正解数はかわらなかったけど、覚えられた感じは増えた!

教員からのコメント

・ゲーム性の高いクイズのようなエクササイズだったので、子どもたちのノリはすごく良かったと思います。間違い探しは、特に、人によって見るポイントが違うようで、難しい・易しいというより、どんな枠組みで見ているか、ということが大きかったようです。On the desk は、回数をこなすにつれて、子どもたちの発見の度合いが高まってきて、努力すれば、少しずつレベルがアップするというのを、体感できたようです。子どもたちの参加度といい、おもしろさといい優れた授業だと感じました。

